

---

# 願い岩

石子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

願い岩

### 【著者名】

石子

N6520D

### 【あらすじ】

一つだけ何でも願いを叶えてくれるという願い岩を見つけた男の  
結末は…

「俺のこの右腕を切つてくれんか?」  
そいつは、私を見るなりそう言つた。

見たこともない奴だった。年齢は分からない。若そうにも年老いでいるようにも見えた。

「どうして私がお前の腕を切らねばならんのだ」

私は問うた。

「自分のものながら、この右腕、どうにも邪魔でしきうがねえ。でも俺はここから動けんし、刀も持つちゃおらん。仕方がない、と諦めておつたところにあんたが通り掛かつた。あんたは腰に刀を提げておる。こりやちょうどいい、と思つて頼んでおるんだ」

言われて、その男の右腕に目を遣ると、それは肘から先が横にそびえる大きな岩に吸い込まれるように消えていた。つまり、岩と一体になつていいのだ。なるほどこれでは確かにここから動くことはできない。

「これは一体どうしたことだ?」

私は再び問う。

この問いに、男は少しだけ躊躇してから答えた。

「俺はむかあし、たくさん人を殺した。たくさん、たくさん……。  
そんなある時、願い岩の話を耳にしたんだ。その岩に願をかけると一つだけそれを叶えてくれる、とな。俺はその岩を必死に探し、そして見つけた。俺の願いは『不老不死』だった。ところが、少し遅れて願い岩を見つけた奴らがおつてな、そいつらは俺が殺した奴らの遺族で、俺が一度と理由もなく人を斬ることができんようにしてくれと願つた。そして俺はこの様だ」

ゆつくりと、男は語つた。

「一つ聞くが、お前の腕と繋がつてゐるその大きな岩が願い岩か?」

「ああ。そうだ」

男の答えを聞いて、私は再び岩を見上げる。確かに威厳のある岩だ。

「うむ。しかし、腕を切つてやつたらお前はまた人を殺すのではないか？」

男は首を横に振った。

「もう、そんな気はない。長い間ここにおつて目が覚めた。俺はただ自由になつて普通に暮らしたいだけだ。頼む。あなたの刀で腕を切つてくれ」

その言葉に嘘偽りはないようだつた。

この男がどれほど前からこうしているのかは知らないが、その間に人を殺したこと後悔したのだろうということが伝わってきた。

私は、こいつを自由にしてやつても大丈夫だと確信した。

「よし分かつた。切つてやるから腕を伸ばせ」

「すまねえな」

私は岩にくつついている男の腕を一思いに刀で切つた。予想に反して血はほとんど出ず、あっさりと切ることができた。

だが、男は岩から離れたと同時に私に飛び掛かってきたのだ。

「なにをする！？」

私は抵抗したが、油断していたせいもあって、片腕の男に刀を奪われてしまつた。男はその刀を私に突き付ける。

「なんのつもりだ？」

「助けてくれたあんたには悪いが、俺がここにいたことは誰にも知られたくないんだ。昔、人殺しだつたこともな」

「私は誰にも言わん」

「もしかしたら、ということもある。俺は新しく生まれ変わつて生きるんだ。俺の過去を知つて奴がいやいけねえ」

言つなり、男は私に斬り付ける。ずっとここで動けずにいたとは思えないほど素早い動きだつた。私は胸を斬られ、その場に倒れた。私に向かつて男は言つ。

「安心しろ。これでもう俺は一度と人を殺したりはしねえ。あんた

には悪かつたと思つがな」

とどめの一突き、とばかりに私の背中に刀を突き刺すと、男は少しうらづく足取りで歩いていってしまった。

だんだん薄らいでゆく意識の中で、私は思つていた。役人になり、妻を迎えてすべてがうまくいっていたあの頃はよかつた。

ところが、ちょっとした失敗で仕事を辞めさせてからは坂道を転がり落ちるようだつた。

突然、両親が莫大な借金を遺して死んだ。仕事のない私にそんなもの払えるわけがない。そのうち妻も我慢できなくなつて家を出ていった。

私はこれから的人生に絶望して死のうと思つたが、情けないこと

に自分で死ぬ意氣地もない。

そんな時、願い岩の話を聞いたのだった。

私は自分をこの世から消してくれるよう願つたため、その岩を探していだのだ。

それにしてもこんなにすぐ願いが叶つとは……

さすがに、うわさに名高い岩だけのこと……は……ある……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6520d/>

---

願い岩

2010年12月3日05時29分発行